



共生社会システム学会ニューズレター

The Association for Kyosei Studies News letter

2021年5月10日発行 第24号

目 次

1. 2020年大会（オンライン）の報告	1
2. 2021年大会（金沢大学）の開催について	2
3. 2020年度第1回運営委員会 議事概要の報告	3
4. 2020年度第2回運営委員会 議事概要の報告	3
5. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ	4
6. 公開研究会（ミニシンポジウム）の報告会	5
7. 学会誌発行遅れのお詫び	5
8. 運営委員会事務局だより	6
9. 会費納入のお願い	6
10. 2020年度～2021年度役員体制	7
11. 総会声明	8

1. 2020年度大会の報告

ニューズレターの発行が遅れましたことを、会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

2020年度共生社会システム学会大会は、10月3日に開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、オンライン上での実施という本学会では初めての形式ながら、2会場11本の個別報告が行われました。幸い、発表が中止となるような技術的トラブルもなく、各報告後の質疑応答に加えてチャットの場での質問など、オンライン形式ならではの議論もあり、盛況に終えることができました。

また、大会に合わせて理事会と学会総会も開催されました。総会には36名の出席がありました。総会での議事事項は以下の通りです。いずれも出席者の賛成多数によって承認されました。また総会では、2020年度～2021年度の役員体制および総会で採択されました声明「政府による「日本学術会議」会員任命拒否の撤回を求めるとともに、学問研究への政治的介入に厳重に抗議する」につきましては、本ニューズレターの7ページ以降に掲載しております。

- (1) 2019年度事業報告
- (2) 2019年度決算報告
- (3) 2019年度決算の監査報告
- (4) 2020年度事業計画
- (5) 2020年度予算
- (6) 2020年度～2021年度役員体制
- (7) その他（声明の採択）

ご協力いただきました皆さまに、感謝申し上げます。

2. 2021 年度大会（金沢大学）の開催について

2021年度大会（金沢大学）を、以下の要領で開催いたします。今大会は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面とオンラインの双方での実施（ハイブリッド方式）といたします。会員各位の積極的な参加をお願いします。

- ・日程：9月25日（土）・26日（日）
- ・会場：金沢大学角間キャンパス総合教育棟
- ・大会実行委員長：金沢大学教授 市原あかね
- ・プログラム

9月25日 14：00～17：00 開催校シンポジウム「地域のダイナミズム（仮）」

9月26日 9：00～12：00 一般報告，会員企画ワークショップ

12：00～12：50 理事会

13：00～13：30 総会

14：00～17：00 15周年記念シンポジウム

「ポスト新自由主義のビジョン：コロナ禍後の社会と共生」

- ・15周年記念シンポジウム 「ポスト新自由主義のビジョン：コロナ禍後の社会と共生」の趣旨 世界的なコロナ禍のなか，社会のパラダイム・システムは大きく変わるとされる．どのような転換点となり，どのような変化なのか．このもとでの，人と自然，人と人（社会），人と文化（風土）の関係性と方向性とはどのようなものなのか．「共生社会」や「共生」概念に着目し，本学会の当面の「3つの課題」から接近する．

①地域の再生：市原あかね（金沢大），コメンテーター：武谷嘉之

②〈農〉の再生：新井祥穂（農工大），コメンテーター：桑原孝史（日生命大）

③他者との共生：片山善博（日福大），コメンテーター：岡野一郎（農工大）

座長：矢口芳生（福公大）

- ・懇親会はありません

- ・大会参加費

発表者 正会員1,500円／学生会員1,000円

対面・オンライン参加 正会員1,500円／学生会員無料／非会員2,500円／学生非会員1,000円

※15周年記念シンポジウムのみ参加の非会員 2,000円

- ・募集

大会での一般報告および会員企画ワークショップを募集いたします。希望される会員は、学会ホームページの「大会」タブより「報告の募集について」（公開予定）を参照し、a)個別報告申請書 と b)報告要旨を作成し、7月31日（土）までにご提出下さい。筆頭報告者が会員であるなど、受付のための要件を確認した上、認められた報告につきましては、c)報告内容資料（様式自由）を、8月31日（火）までにご提出いただきます。詳細については学会ホームページ (<https://www.kyosei-gakkai.jp>) にて公開いたします。

提出先：

新井祥穂（運営委員会 副委員長・東京農工大学） sachiho@cc.tuat.ac.jp

3. 2020年度第1回運営委員会 議事概要の報告

日時：2020年10月18日（土） 14:00～17:30 「15周年記念事業委員会」と同時開催

場所：オンライン開催

出席者：矢口，古沢，荒木，市原，岡野，吉田，新井 欠席者：桑原，稲村

(1) 学会声明について

- ・日本学術会議任命拒否問題をめぐる本学会の対応について、吉田運営委員長から、抗議声明は内閣府、新聞各社に送付したことが報告された。

(2) 15周年記念事業について

岡野委員長から、資料にもとづき説明があった。

- ・実行委員会メンバーは執筆することを確認した。提案されている執筆者でテーマとの折り合いがつかなければ、16巻一般投稿に寄稿する案が示された。
- ・15周年記念事業（15-16巻共通）のテーマに関して、原案「新自由主義からの脱却」が審議された。執筆者・報告者に「新自由主義」像／範疇の分析が必要であるとの提起があり、各委員から見解が示された。また「脱却」というキーワードに関連して、現局面をいかに性格規定するかが議論された。議論の結果、会員間で共有できるテーマとして「新自由主義」を掲げ、また新しいパラダイムに踏み込むことを想起させる意図をこめた、「ポスト新自由主義のビジョン」が採用された。
- ・15巻掲載の関連論考を踏まえ、金沢大会シンポジウムでの議論が展開されることが望ましいことが確認された。関連して、執筆者間相互の連携が緊密にとられることが望ましいことが確認された。
- ・2020年度学会企画ミニシンポジウムは市原委員，2021年金沢大会シンポジウムは矢口会長が、座長を務めることとなった。

(3) 2020年度学会企画ミニシンポジウムについて

古沢委員から、資料にもとづき説明があった。

- ・学会内部を中心にしたシンポジウムにすることを決定した。メインスピーカーとして古沢，コメンテーターを市原（座長を兼ねる）・荒木の各委員が務めることとなった。
- ・一般公開の形で行い、古沢委員の推薦する識者にも、参加を打診することとなった（報告またはコメンテーターを依頼，難しければフロアとしての参加を打診）。識者との連絡は桑原委員が行うこととなった。

(4) その他

- ・10月3日総会・理事会・個別報告会のオンライン開催の実施に関する振り返りを行った。

4. 2020年度第2回運営委員会 議事概要の報告

日時：2021年4月18日（日） 14:00～17:30

場所：オンライン開催

出席者：矢口，古沢，荒木，岡野，吉田，新井 欠席者：市原，桑原，稲村

主な議事：

(1) 会員動向

・入退会について，賛助会員1団体減，正会員は差し引き2名減であることを確認し，新規会員獲得について話合われた。

(2) 「学会15周年記念事業」について

・記念事業の原稿や査読体制とその進捗について報告があった。
・記念事業の原稿を収録する15巻・16巻のタイトルについて，巻タイトルについて，出版社からの意向（若干の差をつける）が伝えられ，今後議論していくことになった（Ⅰ，Ⅱ，など）。
・2021年度大会記念シンポジウムの予稿メ切は，報告者6月末，コメンテーターは7月末となった。

(3) 2021年度大会について

2021年度大会の開催について，日程，会場，参加費，プログラム，各種研究報告募集のスケジュール，実行委員会の体制を確認した。

(4) 共生社会システム学会事務委託について

現在，学会業務委託ならびに学会誌刊行を担当している農林統計出版に関して，現行の運営状況の報告があった。2021年度は引き続き農林統計協会に依頼するが，本年度中に，今後の事務局体制のあり方を検討することになった。

5. 『共生社会システム研究』編集委員会からのお知らせ

(1) 『共生社会システム研究』第14巻について

第14巻の刊行は，5月の連休明けには皆様のお手元に届けられるよう、印刷に入っております。本巻の発行が大幅に遅れまして、会員の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしました。誠に申し訳ございませんでした。

(2) 『共生社会システム研究』第15巻について

現在，投稿論文の査読が行われています。編集作業は順調であり，2021年9月に刊行の予定です。本巻には，学会15周年に向けた特集の第2回目を掲載予定です。

(3) 『共生社会システム研究』第16巻について

『共生社会システム研究』第16巻への投稿原稿を募集します。ふるってご投稿下さい。
締切日は2021年11月1日（月）です。締切日を超えた投稿については，原則、次巻（第17巻）掲載の原稿として取り扱いますので，あらかじめご承知おき下さい。

投稿にあたっては，指定のフォーマットを使って原稿を作成していただきます。このことを含め，当学会ウェブサイトに掲載された投稿規定，執筆要領をよく読んで原稿を作成し，投稿してください。

◎今回、学会15周年を記念して、特集論文を募ります。本ニュースレター記載の記念シンポジウムの欄に挙げられている3つの課題「地域の再生」「〈農〉の再生」「他者との共生」に関する

論文、あるいは「共生と共生社会」に関する論文をふるってご投稿下さい。なお、この特集論文として投稿される際は、投稿票の種別の欄に「特集論文」とご記載下さい。執筆要領などは通常の「論文」と同等です。

原稿の送り先：

東京農工大学工学部知能情報システム工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎

E-mail: i-okano☆cc.tuat.ac.jp (☆を@に変えて送信してください)

6. 公開研究会（ミニシンポジウム）の報告

2020年12月19日（土）に、「ウィズ・コロナ時代と共生社会のゆくえ：SDGs・ワンヘルス・ポスト新自由主義の動向」と題した公開研究会（ミニシンポジウム）が行われました。

新型コロナが、もともと野生動物の間で流行していた病気であったものにもかかわらず、何らかの理由でヒトに感染して猛威を振るうようになったことを踏まえ、現代社会における人と野生動物、あるいは人と家畜（畜産）との関係を考える、興味深いシンポジウムになったと思います。

今回のミニシンポジウムは、非会員を含め、90名の方から参加申し込みがありました。共生社会システム学会を広く知らせることもつなげることができました。

- ・基調報告：「ポストコロナ時代への展望 ～ SDGs・ワンヘルス・共生社会」
古沢広祐（國學院大客員教授）
- ・特別報告：「Covid-19とワンヘルスをめぐる動向：米国西海岸での取り組みから」
戸上絵里（WHO新型コロナウイルス対策本部疫学班，カリフォルニア大学デイビス校ワンヘルスプロジェクト）
- ・コメンテーター：荒木和秋（酪農学園大），市原あかね（金沢大：座長兼務），

7. 学会誌発行等の遅れについてのお詫び

2020年度の「共生社会システム学会」の会誌の発行並びに会費の請求手続きにつきまして、大幅に遅れてしまい、会員の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけしております。誠に申し訳ございません。

コロナ禍の影響は予想以上に大きく、また事務担当者の健康上の事情等によりまして、学会誌の発行並びに会費の請求手続きに大幅な遅れが生じました。学会誌14号の発行は、まもなく会員各位にお届けできるよう、印刷がおおむね完了しております。

最後になりますが、学会誌発行並びに会費請求の遅れについて、多くの会員の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを重ねてお詫び申し上げますとともに、会費の納入をよろしくお願い申し上げます。

8. 運営委員会事務局だより

学会誌 14 号の刊行遅れに加えて、会費の請求手続きにも大幅な遅れが生じたことを、お詫び申し上げます。2020 年度に関しては、コロナ禍による業務遅延に事務局側の事情が重なった、異例の事態であることをご了解いただき、なにとぞ 2020 年度の会費の納入にご協力を賜れば幸甚に存じます。今後このような不手際が発生しないよう、事務局体制の強化を進めていく所存です。

皆様からのニュースレター原稿を募集しております。会員の活動紹介等も歓迎いたします。投稿は吉田(HALLA☆cc.tuat.ac.jp ☆を@に変えて送信してください)までお送りください。

9. 会費納入のお願い

2021 年度会費の納入をお願いいたします。会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 20,000 円となっております。よろしくお願い申し上げます。2020 年度以前の会費を未納の方は、未納分も含めて納入をお願いいたします。

共生社会システム学会ニュースレター 第24号 2021年5月10日発行 編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局 連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学農学研究院 吉田 央研究室 気付 TEL: 042-367-5588 E-Mail: HALLA@cc.tuat.ac.jp 郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会
--

2020～2021年度 「共生社会システム学会」役員

No	氏名	担当	所属
1	矢口 芳生	会長	福知山公立大学
2	荒木 和秋	副会長	酪農学園大学
3	古沢 広祐	副会長	國學院大学
4	市原 あかね	副会長	金沢大学
5	吉田 央	運営委員長	東京農工大学
6	新井 祥穂	運営副委員長	東京農工大学
7	岡野 一郎	編集委員長	東京農工大学
8	桑原 考史	編集副委員長	日本獣医生命科学大学
9	稲村 亮	総務担当理事	農林統計出版
10	秋山 満	企画担当理事	宇都宮大学
11	中尾 誠二	〃	福知山公立大学
12	安藤 光義	編集担当理事	東京大学
13	森 祐希子	〃	東京農工大学
14	柏 雅之	東日本地区担当理事	早稲田大学
15	片山 善博	中部地区担当理事	日本福祉大学
16	武谷 嘉之	西日本地区担当理事	建設政策研究所関西支所
17	上柿 崇英	理事	大阪府立大学
18	植木 美希	〃	日本獣医生命科学大学
19	太田 和彦	〃	総合地球環境学研究所
20	オプヒュルス鹿島ライノルト	〃	上智大学
21	北野 収	〃	獨協大学
22	関(山村)陽子	〃	長崎大学
23	立川 雅司	〃	名古屋大学
24	中川 光弘	〃	茨城大学
25	福田 恵	〃	広島大学
26	福留 和彦	〃	大和大学
27	水野 邦彦	〃	北海学園大学
28	鄭 年 皓	〃	福知山公立大学
29	吉岡 徹	〃	酪農学園大学
30	西山 未真	〃	宇都宮大学
	星 勉	監事	地域社会計画研究所
	榎本 弘行	〃	東京農工大学

「共生社会システム学会」大会声明

2020年10月3日
共生社会システム学会
大会会員総会
学会理事会

政府による「日本学術会議」会員任命拒否の撤回を求めるとともに、学問研究への政治的介入に厳重に抗議する

2020年10月1日、菅首相は、学術の観点から政府に政策提言する「日本学術会議」推薦の新会員候補者105名のうち6名を任命しなかった。理由も明確にしないまま任命を見送ったことは、現在の制度下では初めてのことだ。

任命されなかった6名の候補者は、人文・社会科学からの見方や思考で社会等を分析・考察することで、よりよい社会の構築に貢献しようとする研究者である。今回の任命見送りは2つの点で重大である。

第一に、憲法が保障する「学問の自由」への明白な侵害であり、挑戦であり、前例を否定することになる。現制度をつくる際に、1983年の参院文教委員会での「学術会議側の推薦に基づくという法の趣旨を踏まえる」との付帯決議や政府答弁に反する。

第二に、人文・社会科学の専門的な知見の政策等への活用の機会が大きく後退することである。防衛省の「安全保障技術研究推進制度」の2017年度予算からの増額等、軍事目的への学術研究誘導が進むなか、また文系学部「廃止」の動きのなか、戦前・戦中のような「学問の自由」への侵害、学問への政治的ともいえる介入は、人文・社会科学のみならず学問研究全般の衰退を招くことにもなる。

以上から、共生社会システム学会は、大会会員総会、学会理事会の名において厳重に抗議する。政府は直ちにこの決定を撤回し、改めて学術会議の推薦に基づいて全員を任命すべきである。今後は、このような学問研究への政治的介入を行わないことを強く求める。